

新型コロナウイルスによる臨時休館とSNSでの動画配信

加藤ゆき恵*

2020年2月末から、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日本各地の博物館施設が臨時休館となりました。北海道では2月末に知事による北海道独自の緊急事態宣言が出されたことを受け、道立施設を中心に臨時休館となり、市町村立施設も休館するところが多くありました。釧路市立博物館は、2月・3月は休館せずに開館していましたが、来館者数は激減し、開店休業状態でした。

また、2月末から北海道内の公立小中学校も臨時休校となりました。それを受けて、自宅待機を余儀なくされた子どもへの支援を目的に、博物館施設のコンテンツを使った動画を配信する動きが始まりました。取り組みは日本各地で行われ、北海道博物館の呼びかけで「おうちミュージアム」としてコンテンツや参加施設がまとめられています。

当館はというと、学芸員トークなどの館内で行うイベントは延期しながらも、細々と開館していました。4月18日・19日には「3密」を防ぐ対策を取った上で毎年恒例の展示解説「ようこそ釧路へ」を開催すべく準備していましたが、1週間ほど前に延期が決定しました。それを残念に感じていたとき、他館の動画コンテンツのことを思い出し、展示解説動画を作ることを思いつきました。コンテンツ名はインパクトも狙って「無観客展示解説『ようこそ釧路へ』」とし、4月15日にFacebookページで最初の2本の動画を配信しました。

翌4月16日には緊急事態宣言の範囲が全国に拡大され、当館も4月18日から臨時休館となりました。新聞などに取材していただくときに「臨時休館になったから展示解説動画を作ったのですか？」と訊ねられることがありますが、順番としては動画作成が先でした。しかし、臨時休館によって「動画でいろいろ発信したい」という思いはより強くなりました。なお、内容は子ども向けとは言えないため、「おうちミュージアム」には参加せず、独自の取り組みとして進めました。

学芸員が出演して展示室を案内する動画は12本作成し、Facebookでもいつも以上に「いいね」をいただきました。ほかに野外で撮影したもの、解説無しで展示室を歩いて撮影したものなども掲載しました。Facebookでの反応は上々で、動画をきっかけに当館のFacebookページを見てくれる人が増えたのは予想外でした。制作側からすると、これまでは写真+文章で紹介してきた内容を動画という形にしたという認識だったのですが、写真+文章よりも動画のほうが反応良く、同じ内容でも伝え方によって届く層や人数が異なるのだな、と実感しました。SNSというプラット

*釧路市立博物館

フォームの特性や、不要不急の外出がはばかられる時期であったことなど、複合的な要因があると思いますが、伝え方・伝わり方について考える良い機会になりました。

先ほど「不要不急の外出がはばかられる」と書きましたが、来館者数が激減したところから「博物館は不要不急なのだろうか」と何度も考えました。博物館人としては、博物館や美術館、図書館などの文化施設は「不急」ではないけれど「不要」ではない、と思っていますが、そう思ってくれる人を1人でも多く増やしていくことが大切だと感じています。そのためにも、SNSをうまく活用していきたいと考えています。

*無観客「ようこそ釧路へ」掲載動画

石炭、イトウ(企画展)、霧笛、昆虫(前後編)、アイヌ文化、タンチョウ、湿原の植物、天然記念物の鳥類、昔の冬の暮らし(前後編)、簡易軌道

*その他の動画(展示室で上映中のものを除く)

野鳥の鳴き声(2編)、アリの採集と観察、カラスとシカの攻防、博物館周辺の植物紹介(多数)、カラスの識別方法、常設展示室紹介(3編)、企画展「予告編」(2編)



展示解説動画の撮影風景

釧路市立博物館
Facebook ページは
こちら→

